

新社長



日鉄グループの戦略、主体的に支援

日本製鉄グループの所の表面処理鋼板部
シンクタンク、日鉄総研の社長に就いた。主用途が建材から自動車へ移り変わるのに対応し商品開発に打ち込めるに足る提案、戦略の実行を支える活動を主体的に進めたい。日鉄グループの競争力強化を後押しする、ものづくりの「戦略パートナー」の機能を強化していく考えだ。

1982年に新日本製鉄に入社し、最初に赴任したのは八幡製鉄

日鉄総研 実原 幾雄氏

ものづくりの戦略パートナー 提言機能に磨き

日鉄総研が強みを持つのは鉄鋼分野を中心とした知的財産と専門情報への調査・分析機能。経営トップの強い意思の下、商品構造を変えていくという新

受講者の考える力を養える日鉄グループ内外から依頼が増えて

日鉄らしい経験」が原業の成長センターである東アジア地域の動向分析は重要なテーマ。依頼主となる日鉄の品

駆け出しは製鉄所だが、その後は技術開発本部の先端技術研究所や世界鉄鋼協会の技術・環境部長など幅広い業務を経験した。昨年3月まで7年間は本社で知的財産部長を務め、営業秘密の侵害訴

日鉄らしい経験」が原業の成長センターである。製造業向けを中心にさらに受注を伸ばしたい考えだ。

ジャパン・アズ・ナインパーワンと言われた1990年代初めに米国の留学し、米国が復権をかけて臨んだ数々の変革を肌で感じた。考を今も大切にしている。

(石川 勇吉)

略歴

実原 幾雄氏 (じつはら・いくお) 1982年(昭57) 東大院工学系研究科化学工学専攻修了、新日本製鉄(現日本製鉄)入社。2011年知的財産部長、12年4月同参与、18年4月日鉄住金総研(現日鉄総研)副社長を経て4月から現職。58年(昭33)3月生まれ。香川県出身、61歳。